

紹介しちゃう！
ユリ科カタクリ属カタクリ
Erythronium japonicum Deene.

4月から5月にかけて薄紫色や桃色の可愛らしい花が咲く、通称「春の妖精」とも呼ばれている植物です。日本では北海道から九州の一部まで、かなり広い地域に分布しています。地下部は球根になっており、毎年同じ場所に芽を出します。基本的には群生している植物で、日光が差す落葉広葉樹林帯の林床を好み、ところによっては数千数万の大群落を作るケースも確認されているようです。最近では乱獲や盗掘等により個体数が減少しているほか、土地の開発により生息域自体が減少しています。



センター樹木園
のカタクリ



その名を聞けばわかるように、この植物はかつて「片栗粉」の原料となっていました。球根から抽出したデンプンを調理などに使用していたそうです。デンプンとしては最高級のものなのですが、精製量がごくわずかで高価なため、現在店頭で販売されている製品はジャガイモやサツマイモから抽出したデンプンが使用されています。

センター内の樹木園でも、雪が溶けた5月頃に綺麗な花が咲いたところを見る事が出来ます。開花期間は約2週間と短いため、うっかりしていると見逃してしまうこともあります。今年もしつかりカメラに収められるように、注意深く観察していきたいと思います。

(正木大祐)

季節の便り
phenology

平成24年3月22日
撮影

カラフトイバラは未だ雪の下でした。
雪を掘ってみると・・・！？



バラ科バラ属カラフトイバラ
Rosa amblyotis C.A.Mey.



根子岳、四阿山を臨む
センター内スキ草原



ブナ科コナラ属ミズナラ
Quercus crispula Blume

編集後記

編集後記の欄で3・1震災について度々載せさせていたできてきました。あの日から1年が経ちこの震災を風化させてはいけないということでメディア等でも震災を振り返る特集などが組まれています。▼筑波大学東日本被災者支援プロジェクトで訪れる北茨城市は福島県の県境に位置する市です。3月3日に訪れた際、市内を回ってみました。▼現在、支援活動している地域は、テレビで放映されるような町全体が無くなってしまったような状態ではなく一見被害もそれほどでは無いように見えるのですが町を見渡すとブルーシートで覆われた屋根、倒れたままの墓石、駅のタイルはひび割れ段差が出来ています。ロープが張られ立ち入り禁止のアパート、小学校には「安全確認済み」の張り紙。北茨城へ行くようになり半年が過ぎましたがどれも半年前のままです。その様子に時計が止まっているのではないかというような錯覚に陥りました。小学校での活動の際には、福島から避難されているというお母さんと子どもさんに出会いました。▼3月3日に北茨城へ行き、私を感じているあれからの1年と被災地の1年には気持ちの中で大きく時間の流れの差があるように思いました。▼大きなことは出来ませんが今後継続した地道な活動を続けていきたいと思っています。

(池田雅子)

本通信の印刷・配布は、東郷堂さんに
ご協力いただいています。

次号は6月
発行予定です